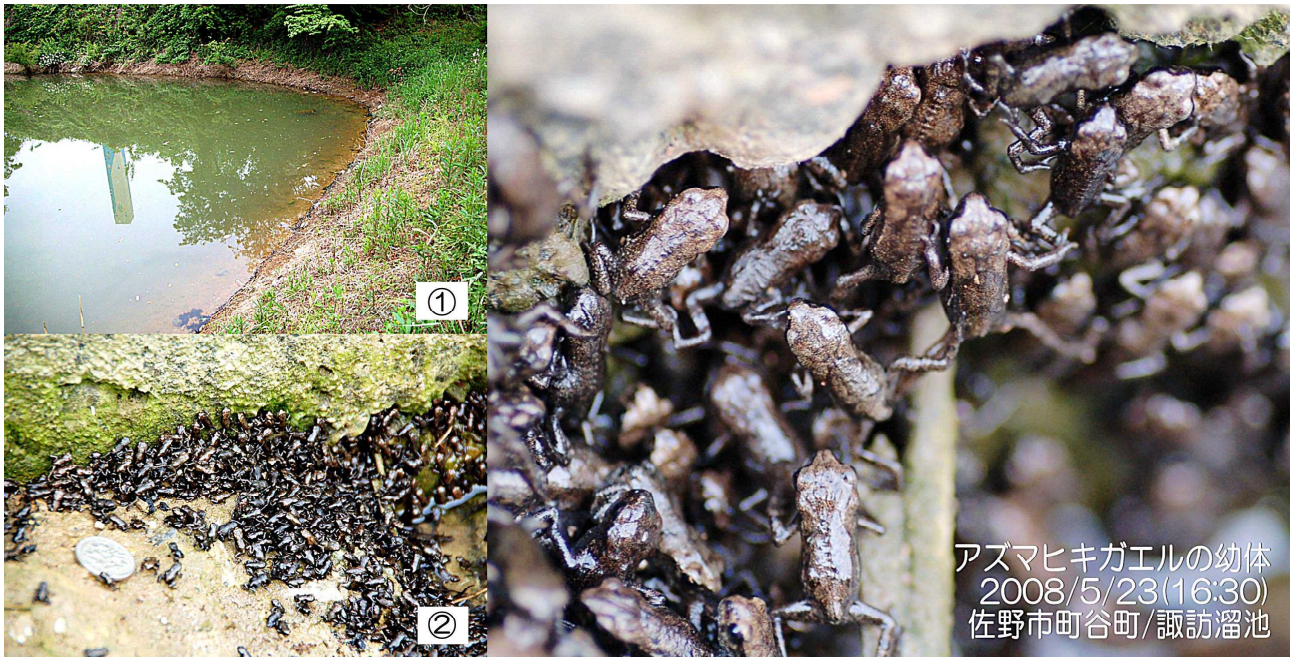


# 子ガエルたちの上陸作戦



アズマヒキガエルの幼体  
2008/5/23(16:30)  
佐野市町谷町/諏訪溜池

**1学期の中間試験が行われていた頃**、佐野市町谷町の溜池では、今年生まれたヒキガエルの上陸作戦が行われていた。溜池の水際に見える黒い帯（写真①参照）が、体長8mm程度の子ガエルたちの集団（おそらく数万匹はいるだろう。）で、陸地を目指し一進一退の攻防を繰り返していた。一匹一匹は激しく動いているのだが、見ている限り、黒い帯の前線はほとんど進んでいない。

**上陸を阻む最大の敵は**、乾燥した土地である。湿った場所を歩かないと、乾いた土や石などに体が張り付き、あっという間に干物になってしまう。そのため、コンクリートの角やくぼみなど、じめじめした場所に集まってくる（写真②参照、丸い物体は100円硬貨）。しかし、そこから、先を争って歩を進めるか、雨が降り地面が濡れるまで、ひたすら好機を伺うかの判断（があるとすればの話だが…）は、まさに生死の分かれ目となる。また、無事に森までたどり着いたとしても、そこでエサが捕れるか、捕食者に食べられないかなど、ハードルは際限なく続く。

**3月下旬に産卵されたアズマヒキガエルの卵**（1匹の雌から約1500～8000個産卵する）は、1週間ほどで孵化してオタマジャクシになり、さらに1ヶ月以上かけて変態し、子ガエルになる。仮に、この池に30匹の雌が産卵したとすると、孵化した約15万匹（30匹×5000個で計算）の幼生のうち、数年後に親までなれるのは、せいぜい数匹～数十匹にすぎないだろう。生存率は、0.1%にも満たないのである。

**映画「史上最大の作戦(1962)」や「プライベート・ライアン(1998)」**などで有名な第2次世界大戦中に連合軍が行ったノルマンディー上陸作戦を彷彿とさせる（あくまでも、映画での1シーンですが…）、と言うと大げさかもしれないが、上陸した子ガエルのうち、何匹が数年後に親としてこの池に戻って来られるかを考えると、こちらの方がはるかに過酷な上陸作戦なのである。小さな命の健闘を祈りたい。



上陸直前の幼生(5月19日)

P.S：今年の上陸は、5月19日(月)から25日(日)までの約1週間、観察できた。24日(土)に降った雨のおかげで、ほとんどが無事に上陸できた模様。